



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究各論 第二章 通巻第十五巻 : 生業活動の組織29
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	国民社会の研究各論 第3章 : 国民文化の整序 『鈴木栄太郎著作集 7 (国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である (同書内での言及による)。
Issue Date	1963-08-08
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77521
Type	manuscript
File Information	I032_013742729.pdf



各論 (3)
K-3

2

29

第一章

NOTE BOOK

MADE OF FINEST PAPER
PREPARED IN TOKYO

生業生活の組織

国民社会の研究

各論

第一章

通巻十巻

昭和三年四月廿七日

FA4

29

社会分業

製造業と農林業
第一次産業と第二次産業の中間的産業
三つの産業の相互関係

口内貨物の輸送経路

一頁の間に二つの商売の利益を得る

たとえ、行く先のどこでも、村町、市町に

ものゝろ、作り手、作り手、作り手

どの町にも村にも一軒の生活必需品

品が、商売に、もたらす、利益

出産、結婚、病氣、死、葬、に必要

用、是、技術、の、存在、の、村、に、必要

衣食住、に、必要、な、用、具、打、撃、の、存在

ど、この、村、に、も、町、に、も

安定した生活、存在、生活、維持、の、必要

税、金、の、存在、の、必要

金、の、生活、人、は、税、と、税金、を、人、は、税

失業、を、統計

(一) 生産の秩序

(二) 社会分業

國民社会における生産活動の秩序と統一

この同じ事、かつて社会分業のフランス
における、農業が社会分業の
同じとして、理解されたことがある。

最近における、対外貿易の急速の

成長、が、口内、及び、経済生活の

封鎖的、独立性、が、甚しく、傷つけられ

口内、は、最早、も、生活、活動の統一

的秩序、は、有し、ない、と、見られる。

けれども、対外的、収支は、直接、口内、生

産の秩序、に、影響を、与え、る、な

に、混乱

に長ずる依り有つたが、化学セ
ンの発達によつて今ではセインに於いて
も日本は^{日本}民をまかなつて直は余
かある。精密キカイ、化学製薬
は世界の市場に伸び渡つてゐる。
世界最大のタンカーが一隊の通水した
と新聞は報じてゐる。

日本の産業は正に世界的である。
これに加え海外との収支は常
に政府の手によつて調節される。
口良度業の自然の発展をその
おゝる即ちおゝから、~~おゝる~~

その中の秩序とそのまに尊重し
ながら、海外との交流の必要を
口良経済の発展のため絶えず
調整してゐるのか政府である。
貿易自由化はその次の段階であ
る。ところが世界の戦後1934には
貿易自由化が始まり、又それと共
に競争の思は収まとなつた。輸入
品目は主として原料であり輸出品
目は皆製造品であり日本はさう
立派な工業国になつてゐる。

こんなに日本経済の最近の躍進は

若いものゝあつたあつたに、なほかつ口民の
生活生活に統一と秩序があつてとい
ふこと。

口民の生活生活の秩序は烈しく
変化してあつたはたしかである。け
れと烈しい動揺が、どんな盛んであ
るかは、今までの秩序の上に秩序の
中からうつて行くのに過ぎない。

東京の男子が都市の工場や公
共学校に賃銀労働者となつて居る
勢となり移住した。また、農村
を離れ、女子はこれより中年以上の
5

女子はかごとく、その代に費や効力
機材が次ぎく使用されるに
り、時々の余剰とある。消費生活
の向上とある。一見して費は
全く一変した様である。けれど
も費はそれだけ。人同国保も米
運の基を本格的に改められ
あつては居ない。都市におり人
同国保も基を本格的に改められ
ていない。費はそれだけ。男はこ
の外に、増えた。都市
の職場では費はそれだけの増
6

したとあやうである。人の考へ方
かかわり、その為にはその生き方も
変つてくると相違ないが、そんな
変化がおこるのはこんな生活で
ついでに解った何十年かのおつ
あうろ。

の組織

口民の

地域的層の
巨額の大小と秩序

(一) 口民
と組織
の交流
記号的

生業的協力と

地域的には北海道と鹿児島とは直接
に生業的協力を行っているとは見られ
ないが、北海道は東洋と鹿児島は
大阪と大坂は東洋と交流す
るにより北海道と鹿児島は協力を
しているともいえるが、
又口民の最高所得階層の人と
最低所得層の人との間にはやはり
直接には交流や協力はなっていない
はるか、最西端の中間的存在
の幾つかの階層を通して西端は
交流しているといえるのである

交流路線

かくの如き交流の結節の役を果している。
 生業が集中しているところが都市であ
 る。その集中している體れや量によつて
 大中小の都市とよばれる。都市は
 人口に比例しかけて交流の據臺と
 なるのである。人口に比例しかけて大中
 や都市の配列とその圓の圓の
 構成の中に人口に比例しかけて
 生業の秩序は充分に安んずる
 といふことが出来る。

然し、かくの如き生業の秩序の
 安定のためには人口に比例しかけて交

動物有様体
の修玉説

流路線の安定した活動が必須である。

動物の体には大細胞から毛細管まで
体の全体にわたる血管が

に口尾端の間に同様の交流路線

が分布する。かつて動物有様体

説から、素上の尾端の間にあり

る同様の現象を同じくするもの

である。それから動物有様体説

動物有様体説の普及を要する

動物のものの細胞の分析に基

して来た。そして動物有様体説が

を学ぶ。○実用としての、集金の一
つである。を知らねば、有様、不
なり。なり。なり。なり。なり。なり。

けれと、この考へず、後にもお構に
最初此は亦大時の様にはすはらしめず
現病いほながら。

への関心を

有様候迄共、口家親満月来
たきすこち
其況をなほ口家ル致しは外に
見よふや、近頃の事はまたわづらひ

政社では首領をサバサバして配り
されていり口良き人の交流路線
の活動を考えているのは何となく

も有様体説の環型は思ひ出さへ
る者の方である。

大中の血管の分岐は毎に都市
的存在の存在する。統治の血管

に並行して他の樹木の文化の
も相なうんて
存する。それを私は字いとい

るがである。

何よりし軍軍なるは、今も昔も

るが、^{基本体的な}文化は活の総局や活動に
たえられ

の活動であるといふのである。わけ

れといふ所と国民生活とを愛別

すゝ和字の考へでは口民戦争の中で
は口家の活動は黙殺蔑視敵視
されつゝとある実を見逃していな
い。口家に対しては口民能ないとして
正しい批評を欠くところに在るの誤
認の様相がある。

口民は如何なる生業に従ふや。その
如何なる場所へ生活するや。自由
下ある。けれども口家経済生活のこ
の重要な生業や場所があつたとして、そ
れをさける様には経済機関の人の
し拒否したとしたなら最終にはどう

(一)

生活文化の
伝承

大した新をいしなうぬき、うてある
か、口口にせぬたけであら、結局口
民は自由と云つては統治の完結といふ
大なる抑圧下の自由でそのより
は、水よりかは「おまぬ」故に結果にお
い、口民は口余の完結「道」の
道を歩いといふ。

昔は父か子にその生活の實際を共同に
行なひに家族内で世代的に生活文化
は傳承されて行つたが、今では職業制
教師が学校で又職場で上役が部
属の役を演ずる。

生草にかけ、階層の序列は支配
の序列に準ずる、採取の序列は
同様にす。

生業の累位
と協力

生業の累位は他人であつ場合と他人の協力関係である場合とがある。生業の累位は交易の原則に従つて協力しつゝものである。生業によつて交易の必要の程度は強弱の別がある。至る生業の必要の最も緊迫を感ずる商業に於いては協力生活は緊迫を感ずる。交易は協力であるとの認識の上に社会生活や社会連帯の理解は可能である。代金債や金世帯は協力である。又は當然である。詐取と強奪の

が友帰るであつ。人同国住に決つて
に分類されぬ。

1 号 奪
2 富 富
3 款 取
非 協 力
一 牙 的 現 象

4 交 易
代 見 借
協 力
相 互 的 現 象
ふ 世 界

右の内 生 業 におけり協力は4と5
である。4は商業、5はサービス業
工業、備給生活云々におけり協力である。
右の右側の人同国住ルかゝる受授
されり現象は物か方法である。

において甲より乙に移動するもの

は物であり、乙において移動するもの

は易微である。

生業者の活動領域は周囲又は

サービスクラウドであるが、それは皆

生業の目的領域性によって決まら

るものであるが、それとそれは生業

者と利用する者の協力の体制と

認めらるゝか、それを共に同

業であるのテリトリの態度が

抑へてゐる。

同業者の関係は甚だ微妙である

よつ協力をある場合と別々である

(一)

生業者の
内部における
協力の同一
性生業者
のテリトリ
の態度

(一)

同業者の
競争協
力

又は競争者である場合もある。

同業者が格位について甚だしく上下の別があるように協力したるものも密かにあり、格位が同等であるものもある。競争の機縁が異なつてあるものもある。三には多かれ人同様の関係が形をなすので競争を生ずる関係がいろいろある。は決定される。

#

学松寺地勘所
新田、
テレビ

ろくろ
テハト
の活動
による

この思はれ、又家族の世代傳承に。

物資の交流は商業工業の職場の

活知によもの

(1) 力の外側
常に四角形
(変形)
(日後品への物々交換)

(27)
一、
代、
以、
借、

唐儒

(3)
—
5
世
R

一、初、後、友

支那

位
位
位
位

poly
66
nylon

I
we

戚氏

光緒二十九年

(3)
—
5
世
R

統治能力

把个腐儒自

口長
あけ
協
中
同
係
の
1/6
係

戦場
12月
おけ
と
協力

牛乳における力

人事
爭國
仔者
西
時
國
外
古
小
集
國

勞資國像
上供下級、支取關係

1. ~~世~~
世帯
の
万
件
の
手
力

[illegible][illegible]

世帯かゝ世帯へ

又ハ
十
七
五
六

D

所見也。高初貸上萬の利。用子も今

7/17/12

E

職場のリアル

F

統治者としての協力

23

24

レ

生母の権利

親権を行使し
一應一応の親権を行使し

同業組合、~~同業~~組合

活動
生産・消費と交易
供給・需要は常に一致しない。
通貨
交易用としての花と過去
交易・路線の10家の株
通化、運送、交通
おれの中の人の
穴居

生業の境界

生業の地代的特徴

生業と所得、日給と月給

竹肉労働と精神労働

生業協力体における支所と被

支配

搾取

第一次産業、第二次産業、第三次産業

一人又は家族生業

少数人生業協力体

百人生業協力体

千人生業協力体

万人生業協力体

商店街組合

同業組合

同業組合

第一項 普及型 — 普及型の需要